

## 企画会議懇談会(各組巡回)を終えて

### ■企画会議懇談会(各組巡回)実施の背景

企画会議が全7カ組の教化の現場に出向き、住職・寺族・坊守のみならず、多くの男女のご門徒の皆様から多様な意見をいただいた。

巡回の目的は、教化現場の現状を自らが見て、聞いて、感じる。「組との連携」がまだ不調なのは、その原因として中央集権型の画一的教化体制の限界と、考えが及ばない「センターと現場とのズレ」の根拠を明確にすべきと考えたからだ。

### ■厳しすぎる現状が生む「見えない厚い壁」

～全組巡回を終え感じたこと～

- ① 世代から世代へ伝わる時代はほぼ終焉。紙面制限から具体例は別の機会に委ねるが、伝え・伝わる教化施策の構築に、人モノ金を集中させる発想を否定してはいけない。
- ② 飛騨真宗文化の源流、伝統を担ってきた地域は地政学的な変容を余儀なくされている。少子化と教育環境の合理化→人口流出と減少→高齢化と過疎化が凝縮され加速化、全国的に進む過疎の縮図を見るようなお話を各地で聞いた。念仏の土徳が染み込んだ大地こそが教化と生活の現場でありながら、生活のためご門徒も寺族もその大地を離れざるを得ない悲しい現実。
- ③ 経済最優先を掲げ、都市圏偏重の文明的・物質的豊かさを求め続ける世界的な潮流に飲み込まれても、今も細々と地域のお寺で続けられる夏休みの境内でのラジオ体操・本堂おつとめ練習・報恩講での練習成果の世代間の伝承の確認…。土徳は今も息づいているのだ。兼業住職の方が自分たちの教化と生活の偏ったバランスの立場を訴えられ、参加された多くの方が領

かれていた光景が目には焼き付いている。訴えの裏には、各組特有の環境に向き合い一緒に考える姿勢や時間を欠き、おざなりに済ませこなしてきたセンターの教化目線が、失望や憤りをもって問われたのだ。

- ④ 後継者問題～寺族の不安とご門徒の関心度  
後継者の問題について、敢えて坊守さんやご門徒を中心に伺った。全体の雰囲気としては、世襲である限り住職家族の問題である、と暗黙の了解となって門徒さんが距離を置き、静観し共有されていないように感じた。寺の将来の問題はその地域の未来にも関わる課題として共有されるべきと考える。息子が後を継ぐと言っている兼業住職の坊守さんが、将来息子が住職と同じような生活をしていくと考えると悩ましい、と複雑な心境を吐露されたのが印象的だった。

### ■見えない厚い壁は壊せるのか

巡回前から薄々予想をしていたが、現実の壁の存在は壊せるような代物ではない、いや壊せないと認め、策を講じねば、が実感だ。見えない壁が見えた、と前向きに考えたい。慢性的教化体制組織、考え方、発信のパイプ等が事務化・硬直化し、あちこちに梗塞を起こしてないか見直す。柔軟な発想や新たな挑戦が流れなくなったのはなぜか。難関な課題を前に、解決には限界があることも認めるべきだ。

しかしやってみよう。かなり面倒くさいし、改革も勇気も必要だ。

### ■これから・求められる力・資質

- ・未来予想力：泰然と時間を過ごさず、5年単位で未来予想図を描いてみてはいかがか。

・共感力：当事者の立場を入れ替え、相手目線と思考をもって考え、見直してみる。

・リストラカ：既存の組織や考え方をリストラクチャリング（再構築）してみる。

### <御礼>

3月末の清見組から7月中の高山1組まで、各組や事務局の皆様には、日程調整、参加者集め、資料作成等にご支援を賜り感謝いたします。その負託に応えられるよう、迅速に報告し、具体案を提案していきます。

ご協力ありがとうございました。



高山1組企画会議懇談会

### 各組報告の掲載について(裏面に掲載)

今月号より裏面において各組の実施報告を掲載いたします。報告掲載については実施組順とし、9月号では清見組・朝日高根組、10月号では益田組・荘白川組、11月号では高山2組、吉城組、12月号では高山1組となります。

なお、報告内容については、組としての考えを取りまとめたものではなく、発言されたものの中から主だったものを列記したものであります。

飛騨御坊真宗教化センター  
企画会議座長 旭野 康裕



## ★センター・別院からのお知らせ★

### 真宗本廟子ども奉仕団 青少年部会

7月28日～30日、5年ぶりとなる真宗本廟子ども奉仕団が開催され、高山地区からは久々野を中心に9名、全体では33人の子どもたちが参加した。

初めて会う子同士、はじめは少しぎこちなかったものの、2泊3日間さまざまなレクリエーションをするなかで子どもも大人も打ち解け、同朋会館のあちこちを縦横無尽に走り回り、一緒に遊びまわっていた。高山地区からの子たちは奉仕団後、京都水族館も見学し帰路についた。

参加した子たちは「初めて東本願寺に行っただけ楽しかった」「いろんな子と仲良くなれた」と、奉仕団を満喫してもらえたようだった。



### 秋季彼岸会(高山別院) 9月19日～25日

19日(木)	三枝正尚氏(隨縁寺住職)	在家止住の男女たらんともがらは
20日(金)	内記 浄氏(往還寺住職)	ナムアミダブツ一命無量寿如来ーいただきます
21日(土)	岩佐幾代氏(浄永寺坊守)	本師源空明仏教
22日(日)	三島多聞(別院輪番)	人と生まれたことの意味をたずねて
23日(月)	旭野康裕氏(永養寺住職)	親鸞さんと同朋
24日(火)	四衢 亮氏(不遠寺住職)	真宗の信心
25日(水)	白尾公信氏(了心寺住職)	凡夫の救い

### 第43回 真宗公開講座 今年10月から開催 伝道部会

今年度も、真宗公開講座が開催されます。昨年度まで11月の報恩講での開催が初回でしたが、今年度は10月に高山一真宗の会主催により第1回が開催されます。

10月4日(金) 14:00～ 報恩講の御和讃を学ぶー信心に聞く世界ー  
講師：四衢 亮氏(不遠寺住職)・三島大遵氏(真蓮寺住職)

## 高山別院報恩講「帰敬式」受式者募集中

各寺院からのセンターへの申請締め切り【10月4日まで】。締め切り日厳守にてお願いします。必ず法名をご記入いただき、冥加金を添えて申請ください。

お詫びと訂正:先月号で帰敬式の締め切り(御門徒→寺院)が9月30日となっておりますが、9月27日でしたので、お詫びし訂正いたします。

## 企画会議懇談会 各組まとめ① 清見組・朝日高根組

**清見組 実施日：2024年3月22日（金） 午後7時～**

**会場：清見組 了徳寺**

- ◆清見組は**広範囲**、集まるのが大変。中心部に来てもらうのに20～30分かかる。
- ◆清見組の教化の中心施策は**親鸞教室**。継続して開催してきたがコロナで数年休止。清見組では親鸞教室で上山時にお剃刀を受ける習わしがある。今別院で帰敬式を受けると「今までやってきたことはどうするのか？」と困惑。これまでの清見組の流れと別院の流れとどう折り合いをつけていくのか課題。帰敬式を受けた方が興味を持って組の親鸞教室で学ぶ。そして本山へ行くきっかけになれば双方向からうまくいくのでは。
- ◆**組の同朋の会**について、親鸞教室実施にあたり始まった。マンネリ化高齢化が進み、親鸞教室は多い時は30人ほど参加されたが近年は1桁。親鸞教室が開けてない＝同朋の会も活動できない。同朋の会の見直しについて検討中。ゆくゆくは組の同朋の会としては一旦解散し、それぞれのお寺の活動を強化していく方向で話し合っている。
- ◆独自の活動としては、高山地区に出られているご門徒さんも多いので、**高山地区の報恩講と懇親会**を別院で開催していたが、コロナの影響で3年程途絶えてしまっている。
- ◆**門徒会の役**が回ってきたり、**同朋の会**の役が回ってきたりで大変だという声もある。組門徒会の方では、“**組門徒会と同朋の会がどう違うのか**”という話が出ていた。
- ◆人数が少ないが**組の子ども会**を2年続けてやっている。センターでも青少年教化ということをやっているの、続けていきたい。
- ◆**組門徒会研修と帰敬式をタイアップ**したらどうかという話が出ていた。一つにできるのであれば集約しながらやっていけたらいい。
- ◆**住職は全員兼職**、仕事はおろそかにできない。お寺の事もやっぴいかなければいけないのは苦しいところは正直ある。
- ◆**過疎化**が進行している。地元で門徒が十数軒。いつまでお寺を維持できるのか問題。自分だけでなく、門徒さんたちが突き付けられることになる。**解散・合併**を考えなければいけない。
- ◆清見は**班ごとで報恩講**を行っている。お寺でやったり、お内仏のある集会場をやったりとそれぞれ。講のような形で。
- ◆**お七夜で大根汁**をやっている。ごはんを持ってきて、大根汁を食べることや、初まいり式も良いことだと思うので、続けていきたい。昔と比べると、**除夜の鐘に最近子どもがたくさん来るようになった**。
- ◆**法名**を頂きたい人は結構いると思う。お寺に行けば貰えるということになれば、行く人も増えると思う。今は、格式が高いイメージがある。生きているうちに法名を貰うという意識がある人はいるが、それが面倒で「亡くなってからで良い」と思ってしまう人もいる。
- ◆宗祖お待ち受けの時、30半ば～50前半の人たちを各寺から2人ずつ出し、“**前の人たちから新しい人たちへ引き継いでいく**”ということで大会を行った。それを縁に同朋の会をやろうかとなった。ただ、毎月行くとだんだんと人が減っていくし、コロナで止まってしまった。それは復活していきたい。そしてつながりは広げていった方が良くと思う。

**朝高組 実施日：2024年4月23日（火） 午後7時～**

**会場：朝日高根 長圓寺**

- ◆**組の状況**…全8ヶ寺、西の端長圓寺さんから東の端大徳寺さんまで20km、車で30分ほど。飛騨地域の中では、1組2組以外で各寺院間の距離は近い方。ただ交通機関がないので自家用車がないと移動は困難。
- ◆コロナ前は、親鸞教室を基本隔年開催してきた。組の門徒会、家庭や地域で声の掛け合いもあり、帰敬式の受式率は比較的良いのではないかと。
- ◆2022年度、**組の子ども会**を実施。思っていた以上に子どもが集まり盛り上がり、大きな感触があり。今年度も6月に実施する予定。
- ◆住職10年以下6名。7名は兼職。経験が浅く手探り。坊守の兼職率も高く、日中は仕事に出ており土日しか寺に居ない。
- ◆当寺では花祭りをやっていたが、子どもがいないということで**花祭りを断念**。子どもが全くゼロという訳ではないが、地区の**小学校と保育園が合併し無くなったのが大きい**。
- ◆**自分自身(住職)も高山に住み仕事**をしており、休みの日にお寺に戻り法務を行う状況。同年代はほぼ高山か他に出ており地元にはいない。40～50代の人がいても、子どもと一緒に住んでいる方は少なく、コミュニケーションをとって教化に繋げていくことが難しい。
- ◆**地域の住民はほぼ高齢者**。総代役員も70～80代。町内でご門徒さんの年忌法要を勤めるよりも、高山市内のご門徒さんの所へ行く方が多い。また、高山からお寺に来て法要を勤める機会も多くなった。
- ◆**スポーツ少年団や習い事**などで、子どもがお寺に来て活動することが難しくなってきた。
- ◆昭和55年くらいまで**各家庭内の報恩講**があった。各家庭でお齋を準備し参り合いをしていた。朝日村史などにも載るほど報恩講を大事にしていた。それがいつの時からか無くなってしまった。純粋に報恩講だけでは勤まらない状況。
- ◆**老夫婦のどちらかが病気**になったり亡くなると、**子どもを頼って出て行かれる方が多く**、空き家が増えて悲しく思う。10～20年後、どうなっているのか考えると厳しいものを感じる。
- ◆**核家族化**が進んでいる中、「**仏壇は欲しい**」と言う方はまだいる。「親が亡くなったから」「心のよりどころが欲しい」という理由。我々が思っている以上に、**仏教、宗教に関心は持たれている**と思う。お寺は祖父母が行く所。自分が行くのは祖父母や親が亡くなった時、順番だと思っていたがそうではない。声をかければちゃんと振り向いてくれるのではないのかなという希望を感じる。
- ◆**兼職**ということもあり、センター教化より自坊の行事を大事にしたい。どちらも大事ではあるが実際そこまで手がまわらない。それを助けてくれるのが教区、出来ない組に人を出してもらうのが教区。そういうことをやって頂きたい。組で育成して自分でやれということは分かるが現実的にできない。
- ◆**門徒さんとのコミュニケーション**が一番大事だと思う。そんな中で、お寺にいかにして集まっていたか。行事の時には来ていただけたら、それが繋がっていく事であると思う。
- ◆**親鸞教室**に行ってほしい。親鸞教室もあるし帰敬式法座もあるでは混乱する。帰敬式は本山で受けてもらいたい。

## 飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2024年9月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	日			
2	月			
3	火	13:00	別 三日の御坊 法話：畑 亮徳氏（願徳寺住職）	本堂
4	水			
5	木	7:00 14:00	別 半日華 教 是旃陀羅問題に関する教区説明会	
6	金			
7	土	14:00	教 朝日高根組門徒会・所長巡回	朝日支所
8	日			
9	月	14:00	教 解放推進協議会公開学習会	研修室
10	火			
11	水	13:00	別 大谷婦人会定例 法話：三島 多聞氏（輪番）	御坊会館
12	木	13:30 15:00	組 高山2組組会 教 古城組門徒会・所長巡回	研修室 誓願寺
13	金	7:00 14:00	別 前住上人ご命日 教 第1回東海連区同推協代表者会議	本堂 岐阜高山教務所
14	土			
15	日	13:00	別 納骨経	本堂
16	月			
17	火	13:30	組 高山2組坊守会	研修室

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
18	水	7:00	別 一日華	
19	木	13:00	別 彼岸会 法話：三枝 正尚氏（随縁寺住職）	本堂
20	金	13:00	別 彼岸会 法話：内記 浄氏（往還寺住職）	本堂
21	土	13:00	別 彼岸会 法話：岩佐 幾代氏（浄永寺坊守）	本堂
22	日	13:00	別 彼岸会 法話：三島 多聞氏（輪番）	本堂
23	月	13:00 15:30	別 彼岸会 法話：旭野 康裕氏（永養寺住職） 教 清見組門徒会・所長巡回 教 教区門徒会協議会真宗本廟奉仕団（～24日）	本堂 了徳寺 同朋会館
24	火	13:00 15:00	別 彼岸会 法話：四衛 亮氏（不遠寺住職） 別 高山地区戦没者追悼法要	本堂
25	水	13:00 19:00	別 彼岸会 法話：白尾 公信氏（了心寺住職） 教 法要教化部会	本堂 WEB
26	木	19:00	教 教化研究所	研修室
27	金	13:00	別 御逮夜	本堂
28	土	13:00 13:30	別 親鸞聖人御命日 法話：北條 秀樹氏（了泉寺住職） 組 高山1組帰敬式法座	本堂 研修室
29	日			
30	月	15:15	組 高山1組末日会	研修室

2024年10月 ※中旬までの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
3	木	19:00	帰敬式推進室 実行委員会	7	月	13:30	坊守会研修会
4	金	14:00	真宗公開講座①	7	月	15:00	益田組門徒会・所長巡回

飛騨御坊 HP『ひだご坊一口法話』9月

三枝 香氏（高山2組随縁寺坊守）・鍋山 雅實氏（高山2組寶圓寺前住職）